

ストーリーで巡る 有年考古館周辺の歴史文化

ストーリー 1 東西・南北の交通ー近世山陽道と千種川ー

千種川は、古くから南北の交通を担った川の道。近世に川を上下した高瀬舟は、米や塩など生活物資を運ぶ重要な手段でした。一方、陸路は東西を結ぶ街道や古道があり、近世には西国街道が通じていました。

近代になるまで千種川に橋は架けられず、交通のうえで壁になっていましたが、その一方で、川待ちの人々を泊めるための宿場町「有年宿」が栄えました。



ストーリー 2 古代の遺跡めぐりー文化財の宝庫ー

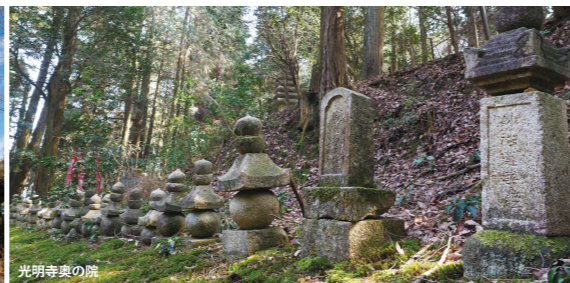
遺跡が数多く残され「文化財の宝庫」と呼ばれる有年地区。弥生～古墳時代の大規模集落の東有年・沖田遺跡、墳墓遺跡の有年原・田中遺跡や、有年牟礼・山田遺跡、市内唯一の前方後円墳の放亀山1号墳、特徴的な墳丘をもつ蟻無山古墳、北の山塊に分布する古墳時代後期の横穴式石室群など、かつての有年地区の隆盛と特徴を物語る、貴重な文化財を体感することができます。



ストーリー 3 夢のあとー山城と山岳寺院の風景ー

中世、戦乱に大きく巻き込まれた有年地区には、中世山城跡が多数築かれました。現在は石垣や削平地、土橋などが残され、当時の様子を偲ぶことができるとともに、広く望める眺望を楽しむことができます。

加えて、有年地区には同時期の山岳寺院が多数築かれており、現在も石造物や建物礎石が残っていて、当時の様子を偲べます。



ストーリー 4 しぶらの里ー豊かな農村風景ー

かつて江戸文化研究者の西山松之助は有年地区を「しぶら(ヒガンバナ)の里」と呼びました。有年地区は、現在でも豊かな農村・里山風景が広がり、時間が止まったかのような感覚を覚えます。道中そこかしこにある歴史を重ねてきた多くの遺産、そしてヒガンバナがそこに彩りを与えてくれることでしょう。

